

平成 30 年 8 月 21 日現在

機関番号：14503

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K21548

研究課題名(和文) 体育授業における動機づけ雰囲気の教育効果に関する縦断研究-生きる力に着目して-

研究課題名(英文) A longitudinal study on the educational effects of perceived motivational climates in physical education classes.-A focus on "Zest for Living"-

研究代表者

中須賀 巧 (Nakasuga, Takumi)

兵庫教育大学・学校教育研究科・助教

研究者番号：10712218

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、体育授業における動機づけ雰囲気、目標志向性、生きる力の3変数間の因果関係について検討を行うことを目的とした。研究1では、体育授業における動機づけ雰囲気に関する基礎データを整理した。研究2では、中学生と高校生を対象に2ヵ月間のインターバルを取りながら1年間にわたり5回調査を実施した。主な結果は以下の通りである。(1)熟達雰囲気と協同雰囲気は、生きる力と正の因果関係を示した。(2)熟達雰囲気と協同雰囲気は、課題志向性を介して、生きる力と正の因果関係を示しており、循環的に高まることが確認された。以上のことから、生きる力を育成するためには、熟達雰囲気と協同雰囲気が重要になることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to investigate causal relationships reciprocally among perceived motivational climates in physical education classes, goal orientations, and "Zest for Living". Study1, the organize basic data on motivational climates in physical education classes. Study2, the study involved junior and senior high school students who completed questionnaires on five occasions at two-month intervals throughout the academic year. The main-results of the study suggested the following processes: (1) The mastery climate and cooperative climate had positive causal effects on Zest for Living. (2) The mastery climate and cooperative climate had positive causal effects on Zest for Living through mediation of task orientation, and exhibited a positive cycle. In conclusion, to enhance Zest for Living in junior high school students and senior high school students, it is important for teachers to cultivate a mastery climate and cooperation climate in physical education classes.

研究分野：体育心理学

キーワード：動機づけ雰囲気 体育授業 生きる力 教育効果 目標志向性 縦断研究

1. 研究開始当初の背景

平成20年中央教育審議会は、変化の激しい社会の中で自分に自信が持てず、自らの将来や人間関係に不安を抱える子どもたちが急増していることを訴えている。これらを踏まえ、学校教育活動では、「生きる力(自立的に生きていく上で必要な能力)」を養成することを急務として挙げている。この「生きる力」とは、自己の将来や生活について考え、困難な出来事や他者との関わりの中でうまく感情をコントロールしながら、責任ある行動をとるための基盤となるものであり、学校教育の中で子どもたちの発達段階に合わせて養成していくことが重要である。

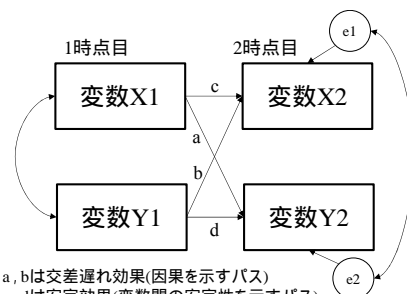
学校教育の中でも体育授業は、健やかな心身の育成を目指しており、自ら立てた目標や困難な課題にチャレンジする活動や仲間と意見を交えながら課題解決する活動など子どもたちが主体的に取り組む場面が豊富にある。そのことから生きる力の養成に有用な教育活動の一つとして注目されている。しかし、体育授業では何に価値を置いた指導(努力や出来栄)なのか、どのような評価基準(絶対的・相対的評価)なのか、どのような志向(記録更新好みか競争好み)なのかなど様相の異なる授業雰囲気が存在する。これらのことから、どのような様相の授業雰囲気が、生きる力の養成に関わるのかを厳密に検討していくことが必要である。

本研究では、授業雰囲気の測定変数として達成目標理論における動機づけ雰囲気に着目した。動機づけ雰囲気とは、重要な他者(教師及びクラスメイト)がつくる環境の構造(雰囲気)であり、成績雰囲気(他者との比較を通しての達成を重視する雰囲気)と熟達雰囲気(学習や熟達のプロセスを重視する雰囲気)に分類される。この様相の異なる雰囲気の捉え方は、その後の達成への認知、感情、行動に影響を与える。これらの側面を持つ動機づけ雰囲気は、達成目標理論の中で環境要因に位置づけられており、どのような授業雰囲気が設定されているのかの測定に適している。

体育場面の動機づけ雰囲気に関する国外研究は、欧米を中心に進められてきた。ここでは体育授業における動機づけ雰囲気と、授業満足感や内発的動機づけ、授業の退屈さなどとの関係について検討した横断研究から、変数間の因果関係について検討した縦断研究まで、より実践場面を重視した知見を積んでいる。その知見では、体育授業の雰囲気は体育学習を促進する熟達雰囲気と、体育学習を抑制する成績雰囲気が二者択一されることを報告している。この成果はスポーツに対する意識や教育文化などの背景の違いから、万国共通の理解や子どもへの適用が困難とされ(西田ほか, 2009)、わが国でも国外研究を基礎に体育授業における動機づけ雰囲気研究を独自に進めている。申請者は、中学生を対象に、体育授業における動機づけ雰囲気をもたらし教育的効果(体育授業に臨む態度、

道徳性、授業外スポーツ活動など)について検討している。その中で熟達雰囲気が教育に有効なことや新知見として成績雰囲気の必要性を指摘してきた。このように体育授業における動機づけ雰囲気は教育現場への活用可能性を備えており、生きる力との関係を調べることで、その養成方法を明確にできることが考えられる。また、それらの研究において生徒一人ひとりが持つ目標の方向性を意味する目標志向性の存在について着目する必要があることも指摘している。

体育場面の動機づけ雰囲気を扱った国内研究の多くは横断研究から得た成果であるため、変数間の位置づけは明らかにできるが因果関係の特定に至らないことから、教育現場への汎用性に欠けるという点に問題があった。したがって、横断研究だけでなく、因果関係の特定に対して説得力のある説明ができる縦断研究への挑戦が重要である。縦断研究では、縦断データ(同一対象を継続的に調査し、記録したデータ)をもとに解析が進められていく。この縦断データを扱う解析手法の一つに、複数の変数間の因果関係を推定する交差遅れ効果モデル(図1)がある。このモデルは、矢印 a, b のクロス点に着目し、その数値から結果を解釈する。また、初回調査(1時点目)から2時点目、3時点目と追跡調査の回数を増やすことで、変数間の因果関係について精度の高い推定を可能にし、循環的な影響過程の有無を明確な形で検討できる。このモデルを基礎に本研究では図2のような5波のパネルデータを用いた循環モデルを提案し、体育授業における動機づけ雰囲気、目標志向性、生きる力の因果関係の推定を進めていく。



a, bは交差遅れ効果(因果を示すパス)  
c, dは安定効果(変数間の安定性を示すパス)  
両矢印(↔)は相関関係を示すパス

図1 2時点の交差遅れ効果モデル(eは誤差)

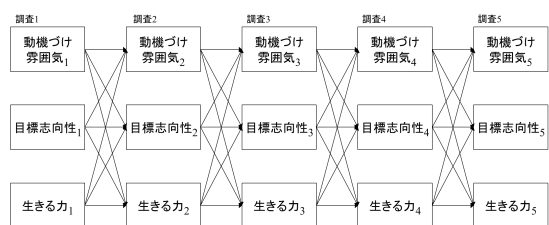


図2 動機づけ雰囲気、目標志向性、生きる力の循環モデル

†分析の際、動機づけ雰囲気には熟達雰囲気、協同雰囲気、成績雰囲気をそれぞれ位置づける。  
††観測変数間の交差するパスは因果関係を推定し、同時観測変数間を結ぶパスはそれぞれ安定性を示す。  
†††観測変数内の数値1から5は調査回数を意味している。  
††††観測変数ならびに共分散は省略している。

## 2. 研究の目的

- (研究1) 基礎研究として動機づけ雰囲気と授業満足感や結果予期といった変数との関係について検討し、基礎データを整理する。
- (研究2) 体育授業における動機づけ雰囲気、目標志向性、生きる力の因果関係を交差遅れ効果をベースにした循環モデルに沿って検討する。

## 3. 研究の方法

- (研究1) 中学生を対象に体育における動機づけ雰囲気測定尺度、目標志向性尺度、結果予期尺度からなる質問紙調査を実施した。すべての質問項目に対して「よく当てはまる(5点)」から「全く当てはまらない(1点)」の5段階で評定するよう回答を求めた。また高校生には体育における動機づけ雰囲気測定尺度、目標志向性尺度、授業満足感尺度について質問紙調査を実施した。なお授業満足感尺度のみ「とてもそう思う(6点)」から「全くそう思わない(1点)」の6段階で評定するよう回答を求めた。統計解析には共分散構造分析を用いた。
- (研究2) 中学生ならびに高校生を対象に、体育における動機づけ雰囲気測定尺度、目標志向性尺度、生きる力測定尺度からなる質問紙調査を5回実施した。この5回の調査は2015年から2016年の1年間を通して同一対象者に実施した。すべての質問項目に対して「よく当てはまる(5点)」から「全く当てはまらない(1点)」の5段階で評定するよう回答を求めた。統計解析には共分散構造分析を用いた。

## 4. 研究成果

主に研究1は体育授業における動機づけ雰囲気の基礎研究として位置づけられる。研究2は体育授業における動機づけ雰囲気、目標志向性、生きる力の因果関係を推定した研究として位置づけられる。またそれらの研究がもたらした我が国への体育・スポーツ研究領域へのインパクトや実践レベルへの活用に向けた示唆について述べる。そして最後には今後の課題を提示する。

### (1) 2015年度

(研究1) 体育における動機づけ雰囲気に関する基礎的研究

中学校体育における動機づけ雰囲気と生徒の結果予期の関係

結果は以下の通りである。(1)成績雰囲気の「成績志向」と「失敗の恐れ」は自我志向性に正の影響を与え、それが肯定的結果予期と否定的結果予期に正の影響を与えた。(2)成績雰囲気の「成績志向」は肯定的結果予期に正の影響を与えた。また、「失敗の恐れ」は肯定的結果予期に負の影響を与えた。(3)

成績雰囲気の「教師の成績志向」と「失敗の恐れ」は否定的結果予期に正の影響を与えた。(4)熟達雰囲気の「教師の熟達志向」、「熟達志向」、「協同」は課題志向性に正の影響を与え、それが肯定的結果予期に正の影響を与え、否定的結果予期に負の影響を与えた。(5)熟達雰囲気の「熟達志向」と「協同」は肯定的結果予期に正の影響を与えた。このことから、生徒の肯定的結果予期を高めるためには、熟達雰囲気および成績雰囲気の両雰囲気が重要になることが示唆された。

### (2) 2016年度

高校体育における動機づけ雰囲気と授業満足感の関係

結果は以下の通りである。(1)成績雰囲気は体育授業満足感に負の影響を与えた。(2)成績雰囲気は自我志向性に正の影響を与え、それが体育授業満足感に正の影響を与えた(男子のみ)。(3)熟達雰囲気は体育授業満足感に正の影響を与えた。(4)熟達雰囲気は課題志向性に正の影響を与え、それが体育授業満足感に正の影響を与えた(女子のみ)。このことから、生徒の体育授業満足感を高めるためには、熟達雰囲気が重要になることが示唆された。ただし、男子の体育授業満足感を高めるためには、成績雰囲気も重要になる可能性が示唆された。

### (3) 2017年度

(研究2) 体育授業における動機づけ雰囲気、目標志向性、生きる力の因果関係

中学生および高校生ごとに分析を行った。その結果、中学生と高校生で十分な適合を示し、変数間のパスも共通することが確認された。それぞれの結果は以下に示す通りである。(1)熟達雰囲気と協同雰囲気は、生きる力と正の因果関係を示した。(2)熟達雰囲気と協同雰囲気は、課題志向性を介して、生きる力と正の因果関係を示しており、循環的に高まることが確認された。(3)成績雰囲気は自我志向性と正の因果関係があり、課題志向性と負の因果関係を示した。以上のことから、生きる力を育成するためには、熟達雰囲気と協同雰囲気が重要になることが示唆された。また成績雰囲気は、間接的に生きる力の向上を阻害することが示唆された。

### (4) 国内におけるインパクト

本研究における成果は、国内学会(日本体育学会)で発表した。そこでは多くの先生方から様々な質問や意見が出され、本研究への関心の高さを感じた。特に一年間を通して収集した縦断データを用いて体育授業における動機づけ雰囲気、目標志向性、生きる力の因果関係について検討した研究は、我が国では実施されておらず、測定データそのものにオリジナリティがあった。また本成果の一部である熟達雰囲気や協同雰囲気が生きる力

に影響を与えるだけでなく、生きる力の養成に成績雰囲気は僅かではあるが関与している可能性が示された点は当該研究領域にインパクトを与えたと考えられる。

さらに、2015年-2016年度は体育授業における動機づけ雰囲気の基礎データを査読がある学術雑誌(体育学研究)に2編掲載しており、我が国の体育・スポーツの研究領域に動機づけ雰囲気という一つの概念を広く周知させることができた。そして2017年度は体育授業における動機づけ雰囲気と生きる力の因果関係について明らかにし、これも査読がある学術雑誌(体育学研究)に掲載することができた。

以上のことから、体育授業において認知されている動機づけ雰囲気が、生徒の生きる力の成長にいかにか重要な働きを示しているのかについて研究者や教員に周知させるための基盤となるエビデンスを構築することができた。

#### (5) 体育授業で活かすための提案

1年を通して生きる力を育成する体育学習の雰囲気づくりを考えると、まず学習集団が熟達雰囲気や協同雰囲気を有していることが重要であり、そこで生徒一人ひとりの課題志向性が高まり、それによって生きる力がより高まるという一つの循環性が存在する。

#### 熟達雰囲気づくり

多様で挑戦的な課題を複数準備し、生徒一人ひとりが自己の技能と課題の難易度を照らし合わせながら自分で課題選択できるように促す。

生徒一人ひとりに努力するための十分な機会(時間)を提供する必要があり、そこでの努力(どの程度努力したのか、どのような練習をしたのか)が課題解決に結びつくことを生徒一人ひとりに理解させる。

#### 協同雰囲気づくり

生徒間を中心につくられる協同雰囲気において教師は、自己の努力だけに注目させるのではなく仲間の努力・頑張り認めることや、互いに協力することができているかなどを十分に理解させた上で班やグループ活動を行わせる。

#### (6) 今後の展望

本研究の結果は1年間を通して収集された5波のパネルデータから見出されたものであり、1年生の時の生きる力が3年後どうなっているか、そしてその背景に体育学習がどの程度貢献しているのかという中学校や高等学校でのそれぞれ3年間の変動までは本データで伺い知ることはできない。今後は入学から卒業までの3年間にわたる長期的な調査期間を設けて、具体的に体育学習でどのようなプロセスを踏みながら変動(向上・低下)するのかについて解明していくことが求められ

るだろう。

また本研究で得られた各変数の循環的な関係を示したモデルと実践場面を照らし合わせた介入研究の視点も重要な検討課題の一つである。具体的には、適切な動機づけ雰囲気の形成を意図した体育学習を展開することにより、本研究で示されているような生きる力の育成を、尺度から得られる量的データに生徒の発言や行動などの質的データを加えた両面から確認することが可能になる。

今後は体育学習における動機づけ雰囲気に関して、より長期的な縦断調査や実践介入の視点を取り入れて検討していくことが必要になる。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 3 件)

中須賀巧, 阪田俊輔, 杉山佳生(2018)体育学習における動機づけ雰囲気, 目標志向性, 生きる力の因果関係の推定. 体育学研究第63巻第2号, 印刷中。(査読有)

中須賀巧, 阪田俊輔, 杉山佳生(2017)高校体育における動機づけ雰囲気および目標志向性が生徒の体育授業満足感に与える影響. 第62巻第2号, 297-312。(査読有)

中須賀巧, 阪田俊輔, 杉山佳生(2015)体育授業における動機づけ雰囲気が生徒の結果予期に与える影響. 体育学研究第60巻第2号, 759-772。(査読有)

[学会発表](計 4 件)

中須賀巧, 杉山佳生(2017)体育学習内容別にみた動機づけ雰囲気, 目標志向性, 生きる力の関係 - 集団種目体験時と個人種目体験時の特徴 -. 日本体育学会第68回大会。(静岡)

中須賀巧(2016)体育授業の心理学-動機づけ雰囲気に着目して-. 日本体育学会第67回大会キーノートレクチャー。(大阪)

中須賀巧, 杉山佳生(2015)高校体育授業における動機づけ雰囲気の生きる力に与える影響. 日本体育学会第66回大会。(東京)

T. Nakasuga, S. Sakata(2015)The influence of motivational climates in physical education and goal orientations on “zest for living” in senior-high school students. The 20th ANNUAL CONGRESS East Asian Sport and Exercise Science Society. (Tokyo)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

中須賀 巧 (NAKASUGA, Takumi)  
兵庫教育大学・学校教育研究科・助教  
研究者番号: 10712218